

令和元年度 保育所等訪問支援事業 事業報告

(1) 訪問支援利用(契約)者数

	新規契約者数	継続契約者数	訪問支援契約者総数
令和元年度	25名	15名	40名
平成30年度	16名	9名	25名

(2) 年齢別利用状況

	1歳児	2歳児	年少	年中	年長	小学生	中学生	合計
令和元年度	0名	0名	2名	12名	5名	21名	0名	40名
平成30年度	0名	1名	4名	2名	7名	11名	0名	25名

(3) 訪問支援施設

訪問先	保育園	幼稚園	小学校	児童クラブ	合計
令和元年度	18名 (10園)	1名 (1園)	20名 (9校)	1名 (1クラブ)	40名 (21施設)
平成30年度	12名 (9園)	2名 (2園)	10名 (7校)	2名 (2クラブ)	25名 (20施設)

*1名に対して重複箇所(小学校と児童クラブ)への支援あり

(4) 支援開始時の主な主訴

	集団活動参加困難	他害	登校登園渋り、不登校	発達の遅れ	分離不安	対人行動の問題
令和元年度(新規契約)	15名	1名	5名	3名	0名	1名
平成30年度	10名	7名	5名	2名	2名	0名

(5) 訪問支援を紹介された機関

	相談支援事業所	児童発達支援事業所	保育園	学校	すくすく子育て課	松風園内検査	兄弟
令和元年度(新規契約)	8名	4名	7名	3名	2名	0名	1名
平成30年度	15名	3名	1名	1名	4名	1名	0名

(6) 月別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
元年度	利用人数	12名	15名	18名	17名	8名	21名	22名
	延べ訪問回数	13回	15回	18回	17回	8回	21回	22回
		11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度
元年度	利用人数	21名	17名	24名	19名	13名	207名	136名
	延べ訪問回数	22回	17回	24回	19回	14回	210回	138回

(7) 関係機関のカンファレンス

令和元年度	14名について	25回
平成30年度	6名について	14回

○地域支援事業

・ペアレント・トレーニングについて

ペアレント・トレーニングは、保護者が子どもにわかりやすい具体的で効果的な対応を身に付けることで、親子ともに自己有能感を持ち日常生活が穏やかに送れるように保護者をサポートするための連続講座です。保護者が子どものもつ困難さを理解し、親子がより良いコミュニケーションで家庭生活を送れるようになることをねらっています。地域での育ちを支援する保育所等訪問支援と並行し、家庭での育ちを支援する目的で実施しています。

毎回前回の振り返りや宿題の報告をし、その日のテーマについて講義し、ロールプレイを実施しました。ロールプレイには、保護者に子ども役を体験してもらうことで子どもの気持ちを理解してもらうこと、また、保護者役を体験することでご家庭でもすぐに実践できるようにというねらいがあります。

全9回の講座をとおして、保護者が子どもの行動に注目できるようになり、穏やかに日常生活を送れるようになったという感想が聞かれました。令和2年度も、ペアレント・トレーニングを実施し、親子ともに自尊心を持ち日常生活がより穏やかに送れるようにサポートしていきます。

(1) 利用児の状況

利用者総数
7名

(2) 年齢別利用状況

就学前	小学生	合計
1名	6名	7名

(3) プログラム内容

第1回 オリエンテーション
第2回 肯定的な注目を与えよう
第3回 好ましくない行動を減らす①
第4回 好ましくない行動を減らす②
第5回 子どもの協力を増やす方法①
第6回 子どもの協力を増やす方法②
第7回 子どもの協力を増やす方法③
第8回 制限を設ける
第9回 これまでのふりかえり

・ティーチャーズ・トレーニングについて

平成27年度から、ペアレント・トレーニングを保育者向けに改良したティーチャーズ・トレーニングを実施しています。目的はペアレント・トレーニング同様、保育者が子どものもつ困難さを理解し、より良いコミュニケーションで保育園生活を送れるようになることです。令和元年度は、保育園の保育士対象にプログラムを行いました。対象とする児童2名を挙げてもらい、その対象児に対してティーチャーズ・トレーニングで学んだ技法を実践してきてもらい、それを宿題として報告してもらいました。また、ロールプレイで、子ども役、保育士役両方を体験してもらい、日々の実践にすぐに生かせるようにしました。午睡の時間帯に園へ訪問し、実施しました。

全6回の講座終了前と終了後で、クラス運営に関する自己評価のアンケートを実施したところ、終了後はほぼすべての項目の得点が上昇し、クラス運営に自信を持つことができたと示されました。また、自分の保育を見直す機会となった、同じ園の保育士が同じ講座を受講し、チームの意識が高まったという感想も聞かれ、ティーチャーズ・トレーニングは、発達障がいのある子どもへの対応方法を身に付けることはもちろん、保育士のクラス運営における効力感や保育士同士の連携の強化に寄与できたといえます。

令和2年度も、地域で生活する子どもたちへの正しい理解と対応方法の啓発のために取り組んでいきたいと思えます。

令和元年度 ティーチャーズ・トレーニング 実施報告

(1)実施状況

実施園	参加人数	実施期間
若葉保育園	6名	令和元年11月～令和2年2月

(2)プログラム内容

第1回 オリエンテーション
第2回 肯定的な注目を与えよう
第3回 好ましくない行動を減らす①
第4回 好ましくない行動を減らす②
第5回 子どもの協力を増やす方法①②
第6回 制限を設ける、総まとめ